

男鹿市議会

12月定例会

市政報告

株式会社ドリムリンクとの「パートナー市町村連携協定」の締結について

12月1日、秋田県庁内において、本市の農水産物などの取扱いや観光、文化、イベント等の情報を発信し本市の地域活性化を図ることを目的として、株式会社ドリムリンクとの間で「パートナー市町村連携協定」の締結式を行いました。

ドリムリンク社では、12月13日にJR秋田駅前におーブン予定の「秋田番屋酒場」において、男鹿市の食材や郷土料理を活用したメニューを取り入れて本市の食をPRするほか、男鹿の情報発信などについて相互に連携した取組を実施することとしております。

本市におきましても、男鹿産の新鮮な魚介類や農産物の美味しさをお客様に知っていただくことで男鹿産品の販路拡大に繋がるとともに、男鹿への観光誘客効果も期待できることから、今後、積極的に

連携を進めてまいります。



木造船の漂着について

11月26日に、宮沢海水浴場の波打ち際に国籍不明の木造船が漂着し、翌日、秋田海上保安部が船内を調査したところ身元不明の8人の遺体を確認されております。



木造船の今後の処理について県と協議した結果、県で撤去後、市が一般廃棄物として処理することとしておりますが、船内には燃料油が混入した海

水があり、直ちに処理する必要があることから、除去費用については市が予備費で対応しております。

なお、遺体については市で火葬いたしております。

第30回秋田船方節全国大会について

11月19日に、男鹿市民文化会館を会場に開催し、市内外から約400人のご来場がありました。

今大会では4部門で総勢107名のエントリーがあり、熟年の部で北浦の猿田茂雄さんが最優秀賞ならびに厚生労働大臣賞を、年少者一部で北陽小学校3年の伊藤泉美さんが最優秀賞を、それぞれ受賞しました。秋田船方節は、民謡王国秋田県を代表する唄であり、これを末永く後世に伝承するべく、今後とも大会を盛り上げてまいります。



市内小中学生の活動について

10月15日に大阪府堺市で開催された第14回全日本中学生女子相撲大会において、鴻西中学校3年の石川乃愛さんが中量級で第2位となりました。

第48回東北地区子ども会育成研究協議会秋田大会について

本大会は、11月11日から12日の2日間、「子ども会と地域の連携による明るいまちづくり」をテーマとして、男鹿温泉郷を会場に東北各県から158名が参加し開催されました。

オープニングセレモニーでは男鹿子ども民謡教室による活動発表があり、基調講演に続き、「子ども会活動と地域の連携」など3つの部会協議が行われ、各地域での取組状況の報告や今後の活動について協議が行われました。

比較して8月が1・6割の減、

9月が5・8割の減、10月が2・9割の減となっております。

また、宿泊客数は、8月が1万8061人、9月が1万4822人、10月が1万5741人で、昨年同期と比較して8月が8・5割の減、9月が1・8割の増、10月が10・3割の増となっております。

8月の日帰り客数は、主要観光施設などへの入込数は比較的好調でありましたが、8月24日の豪雨被害以降の出足が鈍ったことにより、全体の入込数が落ち込んだものと考えております。

また、9月に関しては、「ねんりんピック秋田2017」により、宿泊客数の伸びが見られたところではありますが、大会スケジュール上、選手団の市内観光が多くなかったことが日帰り客数の伸び悩みに繋がったものと考えております。

観光の状況について

本年8月から10月における観光客の日帰り客数は、8月が47万7075人、9月が15万8242人、10月が15万1213人で、昨年同期と



なお、10月に関しては、日帰り客数の落ち込みがあるものの、ジオパーク全国大会の開催や台湾からのチャーター便などにより、外国人観光客の来訪が増えていることが宿泊客数の増加に繋がった要因であると認識しております。

雇用情勢について

本年10月末現在の秋田県の有効求人倍率は1・39倍となっております。ハローワーク男鹿管内の有効求人倍率は1・09倍となっており、昨年同期と比較して0・31ポイントの増前月と比較して0・11ポイント増加しております。

農業の状況について

水稲は、出穂期以降、気温が平年並みに推移したことで、本市を含む県中央の作況指数は、101の「平年並み」となっております。

本年産米の出荷価格は、全国的に過剰作付けが解消されたことから、昨年よりさらに上向き傾向にあります。

J A秋田みなみや主食集荷業者によりますと、主食用米の買い入れ状況は、出荷契約数量16万6000俵に対し、11月末現在の買い入れ数量

は17万1000俵となっております。

メロンは、販売単価は前年並みであったものの、出荷数量が前年を下回り、販売金額は前年対比83・6割の1億5600万円となっております。和梨は、6月の低温や干ばつの影響により、果実が小玉傾向となったことから、出荷数量は計画を22・5割下回る結果となっております。

転作大豆は、刈り取り作業が終了し、現在、選別作業を進めているところであります。

また、秋田県タバコ耕作組合によりますと、葉たばこは、12月5日から出荷が始まる予定であり、収量、品質とも前年をやや下回る見込みと伺っております。

漁業の状況について

秋田県漁業協同組合によりますと、本年1月から10月までの漁獲量は2889ト、漁獲金額は9億7865万円、昨年同期と比較し、漁獲量で402ト、12割の減、漁獲金額では、6245万円、6割の減となっております。

また、今年の花ハタの沖合底引き網漁は、9月24日に初水揚げがあり、11月30日



現在の漁獲量は54トとなっております。